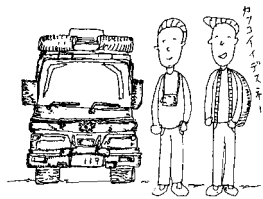


# シリーズ 阿久比を歩く



国際色豊かになった「菊花展」  
 菊薫る秋。役場前周辺では「みんなの菊花展」をはじめ多彩なイベントが行われ、多くの人々にぎわう。今回はイベントに立ち寄りながら、半田消防署阿久比支署周辺をぶらり歩くことにした。  
 消防署を訪れる前に菊花展会場に足を運ぶ。赤、白、黄色の丹精込めて作られた大輪の菊が、所狭しと地区ごとに並び、スリランカから、自動車部品の研

修のため大府市に滞在しているという女性らに出会う。菊の花の感想を尋ねると、流ちょうな日本語で「とてもすばらしいですね」と言葉が返ってくる。国際色も豊かとなった菊の祭典。まさに「みんなの菊花展」だ。文化祭、フラワーフェスティバル in 阿久比を見てから、消防署に向かう。  
 消防署阿久比支署は昭和五十年二月に完成。「いざというときに」阿久比町民の生命や財産を守る消防車や救急車が七台備えられ、職員が三百六十五日、二十四時間体制で勤務する。日ごころからの訓練は欠かせない。私たちが訪れた際も、車庫の前で、消防士が柔軟運動を始めるところだった。  
 普段は入ることのできない部屋の中を見せてもらう。事務所、仮眠室、風呂場と順番に回る。男性だけの職場だが、どの部屋も整理整頓がきちんとなされている。  
 調理室では夜勤者の夕食を、毎日作るとのことだ。若手職員が自分た

消防署を訪れる前に菊花展会場に足を運ぶ。赤、白、黄色の丹精込めて作られた大輪の菊が、所狭しと地区ごとに並び、スリランカから、自動車部品の研

ちで献立を考えて料理の腕を振るう。一番の人気メニューは「カレーライス」らしい。私と友人は共に、大のカレー好き。一度ごちそうになりたいたものだ。  
 消防署を後にする。真剣な表情で友人は言う。「小学生のころ、カッコいい消防車が好きで、消防士になリたかった時期があります。そんなこともあって町消防団で七年間頑張りました。」「確かに、消防団で活躍していたときの君はすごく輝いていたね」と、私がほめ言葉を送るのにもかかわらず、気持ちは上の空。友人は健康まつり会場で行われていた、地上高三十一メートル伸びる「はしご車」の試乗に心が奪われていた。



はしご車試乗が行われた健康まつり会場

あ  
 ぐ  
 い  
 ぶ  
 ら  
 り  
 旅

施設かいわいを行く(半田消防署阿久比支署)